



ラージLCDスピード&タコメーターα 取扱説明書 商品番号09-01-0057

このたびは、TAKEGAWA商品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願いいたします。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

- ◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、当社は賠償の責を一切負いかねます。
- ◎この製品を取り付け使用し、当社製品以外の部品に不具合が発生しても当社製品以外の部品の保証は、どの様な事柄でも一切負いかねます。
- ◎商品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。
- ◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。

☆注意

この表示を無視した取り扱いをすると人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的傷害の発生が想定される内容を示しています。

- ・一般公道では、法的速度を守り違法運転を心掛けて下さい。
(法定速度を越える速度で走行した場合、運転者は道路交通法、速度超過違反で罰せられます。)
- ・作業を行う際は、必ず冷間時(エンジンおよびマフラーが冷えている時)に行ってください。(火傷の原因となります。)
- ・作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)
- ・製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。(ケガの原因となります。)
- ・走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。(部品の脱落の原因となります。)

☆警告

- この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
- ・エンジンを回転させる場合は、必ず換気の良い場所で行ってください。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。(一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)
 - ・走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)
 - ・作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
 - ・点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。(不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
 - ・点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。(そのまま使用すると事故につながる恐れがあります。)
 - ・ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が回りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、通気の良い場所で作業を行ってください。

◎クレームについては、商品の材料および加工に欠陥があると認められた商品に対しては、商品お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は、交換させて頂きます。ただし交換工賃等の一切の費用は対象となりません。正しい取り付け、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。

◎この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいませお願い致します。

○走行速度表示機能について

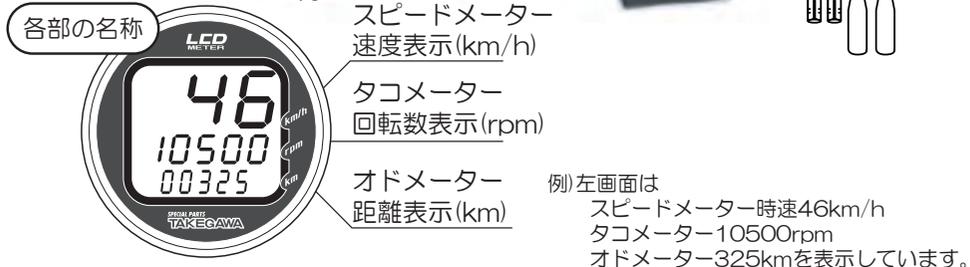
- ・LCDスピードメーターはSTDのメーター同様、メーターケーブルの回転速度をもとにスピードを表示する仕組みになっています。そのためスピードメーターケーブルの無い(電気式でホイールの回転数を測定している)車両では使用できません。
- ・運転者に注意を促す速度警告灯つきの車両に取り付ける場合、スピードメーター変換後はその機能が無くなりますのでご注意ください。走行中は法定速度を守り安全走行してください。
- ・オドメーター機能(走行距離計)

○エンジン回転数表示機能について

- ・LCDタコメーターはハイテンションコードまたはイグニッションコイルのどちらかより点火パルスを読み取りエンジン回転数を表示する電気式タコメーターです。
- ・2サイクルおよび4サイクルエンジンの各気筒数に対応。(各車両に合わせての設定変更が可能です。)
- ・HONDA エイブ等、バッテリーレス車両での作動可能(LCD全種)。
- ・当社インナーローター(商品番号 05-02-031・05-02-051)での作動可能(別途電源必要)。
- ・ポイント点火、エンジンの種類によっては正確に表示がされません。(一部排気ガス規制モデルなど)
- ・最高表示回転数は、30,000rpm。
ただし、点火方式の特殊な車両およびCDIにより点火が制御されている車両は正確に数値を表示できない場合があります。

商品内容

番号	部品名	数量	番号	部品名	数量
1	ラージLCDS&T メーターα	1	9	ワッシャーB 6×16×1.6	1
2	電源用配線	1	10	六角フランジナット	2
3	エレクトロタップ	2	11	パルス入力配線A	1
4	タイラップ	2	12	パルス入力配線B	1
5	メーターマウントステー	1	13	熱収縮チューブ	1
6	クッションラバー	2	14	メスギボシ	2
7	メーターマウントカラー	2	15	スリーパー:メス	2
8	ワッシャーA 5×18×1.0	4	16	取扱説明書	1



ご注意ください

◎液晶の性質として、長時間、直射日光を受け続けると痛みが発生してしまいます。なるべく液晶部分に夏場に長時間、直射日光が当たらないよう気を付けて下さい。万が一、黒くなってしまった場合は、メーター本体を直射日光から避け、冷やしてください。しばらくすると正常に戻りますが、真夏などの強い直射日光下で長時間放置した場合はシミのような後遺症が残るなどの支障が生じる可能性がありますので、特にお気を付けてください。

◎本製品は完全防水ではありません。

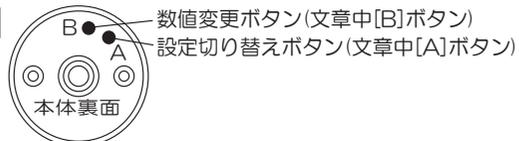
湿度の高い状態に置きますと本体内に湿気が浸入し画面がくもってしまう可能性があります。

◎バッテリー、プラグ、配線の状態(取り回しや、接続状況)によってはメーター数値表示の乱れなど、不具合が生じる可能性があります。

バッテリー状態の悪い車両やバッテリーレス車両ではメーター電源電圧が安定しておりません。そのためエンジン始動時などに、一瞬数値表示に乱れを生じることがありますが故障ではありません。またメーター電源電圧の変化が大きい車両や点火系ノイズの激しい車両では、メーター内部の電気信号が乱れ、距離表示や回転数表示などに間違った情報を表示してしまう可能性があります。

●装着時は各部(特に配線、点火系、バッテリー)の点検をしっかりと行い、装着後も必ず定期的に点検をしてください。

④ タコメーターの設定変更



車両のメインキーをON(車種によってはエンジンを始動)にし、メーターの電源が入った状態(液晶表示がある)にしてください。



[A]のボタンを一回押します。
画面に「CYC～」という表示が出ます。
この時、[B]のボタンを押す度に「CYC-2」⇄「CYC-4」と交互に表示が変わります。

ご自分のバイクに合わせ、どちらかを選択してください。
「CYC」の選択が完了しましたらもう一度[A]ボタンを押してください。

画面に「P | S～」という表示が出ます。
この時[B]のボタンを押す度に「P | S」の右側の数表示が変わります。
上記で「CYC-2」を選択した場合は1⇒2⇒3⇒4⇒1⇒2⇒・・・となります。
また「CYC-4」を選択した場合は1⇒2⇒3⇒4⇒5⇒6⇒8⇒1・・・となります。
ご自分のバイクに合わせ、選択してください。

すべての設定が完了し、[A]ボタンを押すと設定変更画面から標準画面に戻ります。

エンジン種類(CYC)、気筒数(PIS)について

ここでの[エンジン種類、気筒数]はクランクシャフト1回転回りの発火回数を表すための例えです。ですから、実際のバイクのエンジン種類や気筒数とは異なる場合があります。

←0.5回はクランクシャフト2回転に1回発火を表しています。

クランクシャフト1回転あたりの発火回数	0.5回	1回	1.5回	2回	2.5回	3回	4回
2-C (2サイクルエンジンの例え)		1-P		2-P		3-P	4-P
4-C (4サイクルエンジンの例え)	1-P	2-P	3-P	4-P	5-P	6-P	8-P

Pは気筒数の例え

●ご自分のバイクの発火回数が分からない時
エンジン種類は[2-C]固定で、まず気筒数を[4-P]に設定し、エンジンを軽くふかして表示数値を確認してください。
気筒数4-Pでは大抵実際よりも少なく表示されますので様子を見ながら3-P → 2-P → 1-Pと数値を変えて行くと表示数値が増え、丁度良い設定が見つかります。

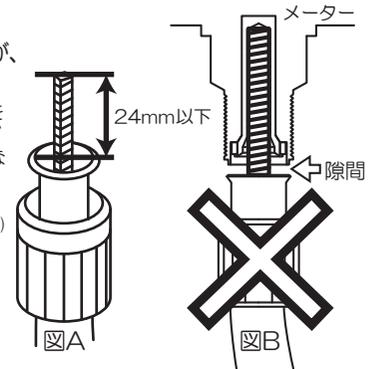
モンキー系エンジン、エイブ系エンジン、その他4サイクル1気筒、4気筒のエンジンの多くがクランクシャフト1回転あたり1発火ですので設定は[2-C 1-P]となります。
2サイクル1気筒のバイクの一部やインナーローター装着車では、クランクシャフト1回転あたり2回発火の場合があります。

⑤ ケーブル形状を確認してください。

本製品はJIS規格に基いたケーブル差込部形状を採用しておりますが、輸入車及び一部国産車ではケーブル加工が必要な場合があります。

●ケーブルアウターからのケーブルの飛び出し量を測って下さい(図A)。24mmを超える場合はその部分をカットして下さい。図Bのように底つきし、上に押し上げた状態で使用されますと回転部が激しく磨耗してしまい、正確な速度を認識できなくなってしまいます。

●当社でケーブル飛び出し量24mm以上を確認した車両(全モデルとは限りませんが)
ヤマハ・グラッドアックス・Bw's100用
ホンダ・NSR50/80



⑥ スピードメーターケーブルの接続

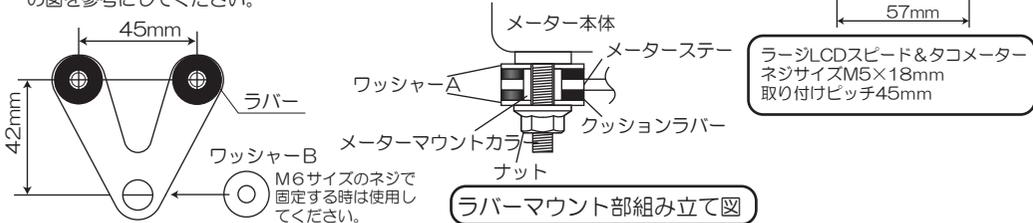
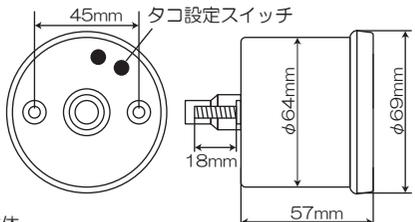
STDメーターに接続されているスピードメーターケーブルを外し、LCDスピードメーターに接続し直してください。

●ケーブルがメーターケーブル接続部の奥まで差し込めた事を確認してから、ケーブルロックナットを締めてください。
※走行中にケーブルの接続が外れないようプライヤーなどを使いしっかりと取り付けてください。
取り付け後も緩みが無いか定期的に点検してください。



① 本体の取り付け

- メーター本体を付属のメーターステーを使いスピードメーターケーブルの長さに余裕のある位置に固定してください。
- ・ステー固定用の穴はM10サイズのネジが通るようになっています。ハンドルクランプなど見やすい場所に走行中外れたりしないようしっかりと固定してください。
- M6サイズのネジで固定する場合は付属の「ワッシャー-B」を使用し固定してください。
- ・ラバースタンプ部の組み立て、メーター本体の固定に関しては右下の図を参考にしてください。



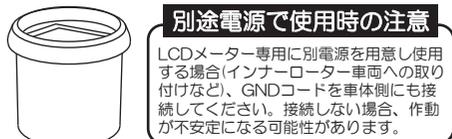
② 電源の接続

作動用に12V電源への接続が必要です。

- 赤色の配線を車輛の+電源配線に接続、黒色の配線をアース配線に接続または直接ポディーアースしてください。メーター側配線にφ3.5オスギボシを取り付けておりますので、車両側に付属のメスギボシを取り付け接続する事を推奨します。配線先の無い場合は付属のエレクトロタップを使用してください。

- ・バッテリー付き車輛はメインキーONで常時電圧の掛かる配線への接続(※1)。
- ※1) バッテリー付き車輛でも弱ったバッテリーを使用しますとエンジンの回転数が上がった時に高電流が流れメーターが壊れてしまいますので、気をつけてください。

- ・バッテリーレス車輛はエンジン回転中に常時電圧の掛かる配線への接続。



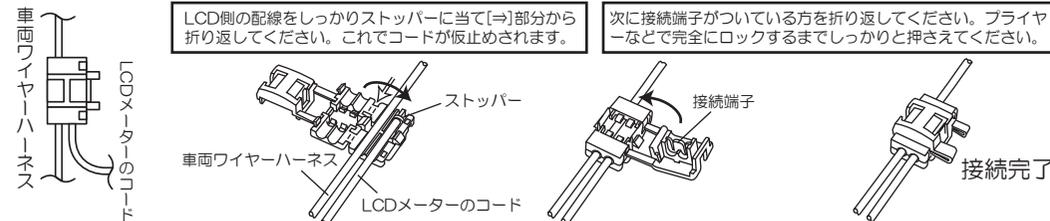
各メーカーの代表配線色(※2)

	+電源配線色		アース配線色
HONDA	黒	赤/黒	緑
YAMAHA	茶		黒
SUZUKI	橙		黒/白
KAWASAKI	茶		黒/黄

※2) 車種によって(特に旧車)配線色の異なる場合があります。

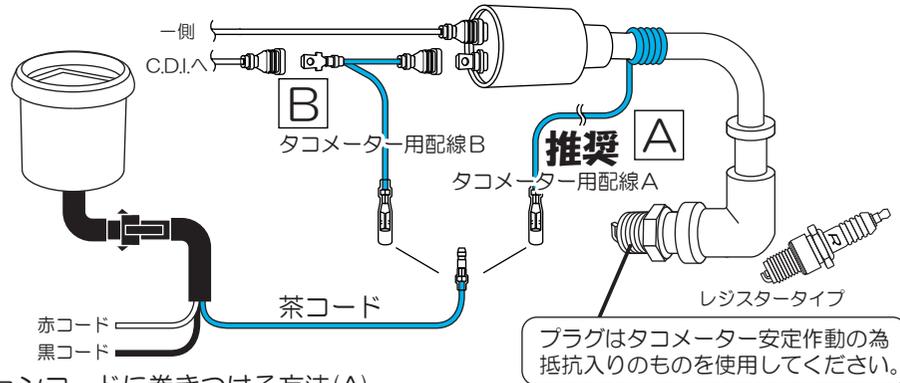
エレクトロタップのご使用方法について

- 本商品の電源用配線(赤コード、黒コード)は先端部分にギボシを取り付けております。エレクトロタップを使用し配線を接続する場合はラジオペンチなどで切り落としてから行ってください。



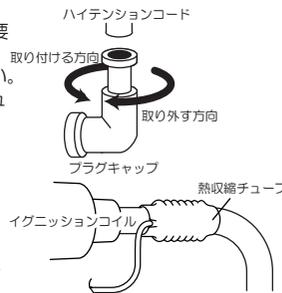
③ パルス入力コードの接続

LCDタコメーター、茶色の配線は点火パルス入力用の配線です。下記A、Bの2種類の方法どちらかでバイクに接続してください。当社推奨はA接続で約5回巻きです。 イグニッションコイル



ハイテンションコードに巻きつける方法(A)

- ・ハイテンションコードからプラグキャップを外します。
- ・付属のパルス入力配線Aをハイテンションコードに約5周(車両により巻き数の調整が必要になる場合があります)巻き付け、絶縁テープなどで仮止めしてください。
- ・熱収縮チューブを通しますのでテープの巻き過ぎで太くならないように注意してください。
- ・テープで配線を仮止めしている部分に熱収縮チューブを通し、ドライヤーなどで熱しチューブを収縮させてください。
- ・チューブの収縮温度は90℃以上で、約50%の内径まで収縮します。
- ・最後にプラグキャップをしっかりと取り付けてください。



危険 タンクにガソリンがあり、大変危険ですので、ライターなどの火を使いチューブを収縮させることは絶対に止めてください。

- タコメーター用配線Aはさまざまな種類のバイクで使用していただけるよう、コードを長め(約2m)にしておりますので、各車両に合わせ必要な長さに切断し、使用してください。

イグニッションコイルに直接接続する方法(B)

- ・付属のパルス入力配線Bを使いイグニッションコイルの一次側端子に接続してください。
- ・各車種で配線色は異なります。右図を参考に配線を接続してください。
- ・このときアース側に接続してしまいますと作動しませんのでご注意ください。

一次側配線色※

HONDA	黒/黄・青/黄・黄/青
YAMAHA	橙・灰
SUZUKI	白・黒/黄・白/青
KAWASAKI	緑・黒

※車種によって配線色の異なる場合があります。

2種類の取り付け方法について

2種類の取り付け方法どちらでも表示されるエンジン回転数は基本的に変わりません。数値表示が不安定になってしまった場合、ハイテンションコードに巻きつける方法の方がタコメーターの数値表示が安定する場合があります。また、ハイテンションコードに配線を巻いて使用の場合、巻き回数を減らす、増やす、巻く位置を変えるなどで数値表示で不安定だったのが直り、安定する場合がありますので試してみてください。

直接接続(B接続)しますと車両の種類によっては、エンジン回転数に応じて速度計が連動してしまうことがあります。点火の強い電気が電源コードの方に電波のように入ってしまうことが原因です。対策方法としては

- パルス入力をハイテンションコード巻き取り付けに変更する。
- アースコードの接続状態を確認してください。アース不良も原因の一つになります。
- 配線の取り回しを変える。電源コード(赤、黒)とタコメーターコード(茶)を出来るだけ離してください。

モンキー、ゴリラ

チェーンアップ車両は **A**
ノーマル車両は **A** 又は **B**

- ★A、B接続どちらでも作動しますが、チェーンアップ車両、ノーマル車両、両方でA接続を推奨します。
- チェーンアップ車両で高回転まで使用する場合は、必ずA接続にしてください。配線がシンプルなB接続はノーマル車両専用です。

エイプ

エイプは必ず **A**

- ★エイプの場合はA接続で取り付けを行ってください。
- 電気式タコメーターは、点火に乱れがあると正確に数値を測定できません。高回転での点火をより正確するために当社製Ape用「ハイパーC.D.I」商品番号07-02-19の取り付けを推奨いたします。